

指示があるまで、このページをよく読んで待ちなさい。指示があるまで、この問題用紙を開いてはいけません。

I 受験に際しての注意

- 1 問題用紙は一ページ（表紙を除く）から十七ページまでである。
- 2 問題の内容についての質問には、いつさい応じない。それ以外のことがらについて尋ねたことがあれば、手をあげて監督者に聞くこと。
- 3 監督者の「はじめ」の合図で始め、「やめ」の合図ですぐやめること。
- 4 解答用紙が折れ曲がったり、破れたり、汚れたりした場合には、手をあげて監督者に申し出ること。

II 解答記入上の注意

- 1 すべてマーク方式で解答を記入すること。
- 2 マークは必ずHBの黒鉛筆を使用して記入すること。ボールペン、万年筆、サインペン等を用いてはいけない。
- 3 答えは、すべて各問題の指示にしたがって解答欄にマークすること。
- 4 一度マークしたものを訂正するときは、プラスチック消しゴムで完全に消してからマークしなおすこと。消して出たカスはきれいに払っておくこと。
- 5 次の場合は、いずれも誤答となるから特に注意すること。
 - (1) マークの仕方が悪かった場合。（特にマーク欄が塗りつぶされていなかったり、外側に少しでもはみ出した場合）
 - (2) 問題が要求している以上に余分な答えをマークした場合。
 - (3) マークすべきところ以外に印をつけたり、汚したりした場合。特に枠内は絶対に汚さないこと。
 - (4) 訂正の場合の消し方が不十分な場合。

III 氏名等の記入上の注意

- 1 問題用紙と解答用紙の両方の所定欄に、漢字で氏名を、算用数字で受験番号をそれぞれ記入すること。
- 2 解答用紙の左側にある受験番号をマークすること。

氏 名

受験番号

一 次の各問いに答えなさい。

問一 次の文の傍線部の文節と二重線部の文節の関係を選び、番号をマークしなさい。

舞台で彼は最高の 気分を味わった。

- ① 主・述の関係
- ② 修飾・被修飾
- ③ 接続の関係
- ④ 補助の関係

問二 次の傍線部の助動詞のうち、意味・用法の異なるものを選び、番号をマークしなさい。

- ① 今晩は台風が上陸しそうで、不安だ。
- ② 走れば間に合いそうだから、急ごう。
- ③ 弟は、茶道の稽古が楽しいそうです。
- ④ この野菜はとてもおいしそうですね。

問三 「舞姫」の作者を選び、番号をマークしなさい。

- ① 芥川龍之介
- ② 森鷗外
- ③ 中島敦
- ④ 谷崎潤一郎

問四 「野宿」のように湯桶読みの熟語を選び、番号をマークしなさい。

- ① 味方
- ② 場面
- ③ 団子
- ④ 本屋

問五 次の敬語表現のうち不適切なものを選び、番号をマークしなさい。

- ① 今、先生がお越しになりました。
- ② お客様がお土産をくださる。
- ③ お客様が午後一時に到着なさるはずだ。
- ④ 先生が私のコレクションを拝見した。

問六 次の二語の熟語が類義語の関係にないものを選び、番号をマークしなさい。

- ① 手腕―技量
- ② 重要―肝心
- ③ 偶然―必然
- ④ 原因―理由

問七 次の傍線部の接続詞と同じ種類の接続詞を選び、番号をマークしなさい。

料理の味は拔群だ、しかも栄養満点である。

- ① また
- ② したがって
- ③ なぜなら
- ④ すなわち

問八 次の漢字の送り仮名が正しいものを選び、番号をマークしなさい。

- ① 必らず
- ② 忙がしい
- ③ 慰さめる
- ④ 滞る

問九 「庭」の部首を選び、番号をマークしなさい。

- ① えんによう
- ② がんだれ
- ③ まだれ
- ④ さむらい

問十 季語「鈴虫」の季節を選び、番号をマークしなさい。

- ① 春
- ② 夏
- ③ 秋
- ④ 冬

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

人間は言葉のなかに生まれてきて、言葉によって育つてゆくのだということに、みずからよくよく思いをひそめないと、人間はとんでもない勘違いをすることがすくなくありません。そのことに自覚的でないと誤るのです。物はゆたかになり、生活はゆたかになり、暮らしよりも落ち着いてきて、ずいぶん不自由もなくなった。にもかかわらず、たった一つ、今の日本でゆたかでないものがあります。ゆたかでないものは何でしょうか。わたしたちにとって今いちばんゆたかでないものは、言葉です。言葉がゆたかではありません。

言葉というのは、人によって異なるものでなく、だれにとつてもおなじものです。みなおなじということでは、言葉は平等なものだけれども、人と人を違えるのも言葉です。言葉をゆたかにできる人と乏しくしてしまう人とを、言葉は違えるからです。

大事なのは言葉で自分を表現することだ、とだれもがそう思っていますし、そう言われています。^①言葉^①を人間の家来と見なせばそうですが、実際は違うのです。問われるのは、言葉で自分をどうゆたかにできるか、ではなく、自分は言葉をどうゆたかにできるか、なのです。

言葉のゆたかさというのは、たくさんの言いまわしをあれこれ揃えることではありません。^②美辞麗句は言葉のゆたかさを意味しないのです。そうでなく、むしろ限られた言葉にどれだけ X をゆたかに込められるかが、言葉にとつては重要なのです。

言葉のゆたかさとは、どういう自分であるかを語ることができる、みなおなじなかでおたがいがいがどういう人間であるか、おたがいにごういうふう^③に違っているかをすすんで語ることができる、そういうゆたかさにほかなりません。日常に普通にある言葉を、どのように使うか。言葉は、それがすべてだからです。

言葉というのは、言葉の使い方の問題です。自分がどういう言葉をどう使うか、その言葉のなかに自分をどう表してゆくか、それができるか、できないかが、これからは社会のいちばん重要な^④おもり^④となつてゆくようになるのではないかと思うのです。

わたしたちにとっての言葉のあり方について、誤解をひろげてきた一つは外国語に対する考え方です。受け入れられやすいのは、ある

国を理解したりその国の人と親しくするには、その国の言葉ができなければだめだという考え方ですが、果してそうでしょうか。

市民の一人一人の親しみのもち方というのは、実際には、しかしそういうふうではありませんし、ありません。その言葉を知らない国に旅することはむしろ普通なことですし、たとえ国がおなじであっても、地方によって、それぞれの言葉がまったく違って、わからなくなっても当然だからです。

ほとんどの外国語は覚えることがまずないのが、普通です。言葉がわからなくてデンマークを旅する。言葉がわからなくてベリーズを旅する。そうであって、たった一つ、どんな国、どんな地方にも、共通するものがあります。身ぶりです。言葉の意味はわからない。しかし、怒っているか、笑っているか、悲しんでいるか、話したくないか、不機嫌か、おもしろくないかは、その場においてわかるし、伝わります。笑顔は、笑顔です。

言葉がわからなければ、話せないのではないのです。どこの国でも、怒っているときには怒っているように話すでしょうし、「なんだこのやろう」というときは、イタリアでもカザフスタンでも「なんだこのやろう」という話し方で話すでしょう。「ああ悲しい」という思いを込めるときは、日本語を話す人もインドネシア語を話す人も、その思いを話し方に込めるでしょう。

言葉はわからない。しかしその人は、今悲しいのだと理解できる。言葉はその言葉のもつ意味だけでなく、その言葉のもつ身ぶりを表し、そして身ぶりはもとの言葉よりもずっとひろく共通の了解をつくりだします。

自分が表したいということを自分の言葉で話す。そうであれば、その言葉を知らなくとも、おたがいのあいだで、おおよそ伝わるものは伝わるし、伝えられるということです。何もかも理解しなければならぬというのは、逆にしばしば避けがたい誤解を生みやすいのです。

外国の言葉について、その言葉をべらべら話せるようにならなければという尺度は、間違っています。英語は苦手中の苦手だという人が、初めてアメリカに行った。そして帰ってきたときに会ったら、感に堪えないというふうに、アメリカでは赤ん坊まで英語を話している、と言った。日本では英語を話せることは才能のように考えられています。しかしアメリカに行けば、赤ん坊だって上手に英語を話す。

そう言うなら、スペインに行けばスペインの子どもがスペイン語を、ノルウェーに行けばノルウェーの子どもがノルウェー語を、信じられないほど上手に話すということになります。

しかし、母語は才能ではないのです。^⑤ひとはその言葉のなかに生まれるのであり、どんな赤ん坊でも、才能のあるなしにかかわらず、その言葉を話すようになります。

言葉というのは習慣、もしそう言つてよければ、文化の習慣なのです。

ところが、大きくなってから異なる国の言葉を学ぶときは勉強して学び、その言葉に熟達するようになることは勉強の成果となる。そうこうして、言葉とはそういうものだというふう^⑥に、つい勘違いしてしまう。そのため、ややもすると自分は言葉によって育てられたという思いを、母語に対してすらもたなくなってしまうかもしれない。逆に、異国語に対しては、その言葉を勉強するのは面倒だ、厄介だという感じを、ともすれば簡単にもつようになってしまいかもしれません。

『マイ・フェア・レディ』という、公開されてもうずいぶんになるのに、今でもとても人気のあるオードリー・ヘップバーンの映画があります。映画は、とても元気がいいけれども、貧しい語彙と粗野な言^⑦いまわしと不調法な話し方しか知らない若い女性が、苦心惨憺のあげくに、みずから言葉をゆたかにしてゆくようになるまでを、巧みに描きます。その映画の急所は、言葉のもち方が、一人の間を、人格をつくるのだということです。

言葉というのは、とどのつまりその人の生き方の流儀であり、マナーです。言葉をゆたかにするという^⑧のは、自分の言葉をちゃんとつづことができるようになることです。自分のでない言葉に、流行の言葉や借用の言葉に、けつして自分を預けてしまわない。どんなにおカネをもつていても、おカネで買えないものが、言葉です。人間の持ち物のなかでも、言葉だけは、赤ん坊が言葉を覚えてゆくときのよ^⑨うに、ただただ学ぶのでなければ手に入らないのです。

勉強しなければならないというわけではありません。言葉というものでこんなにも自分をゆたかにしてゆけるのだという、そのことは自分で覚えるしかない。そういう意味では、学ぶというより、覚えるといったほうがいいかもしれません。それだけは自分で覚えなければ

覚えられないのです。

言葉なんか毎日、好きなように、好きなだけ使っている。全然、不自由していない。わたしたちは、そう思おうとしています。言葉に、不平等はない。みなおなじです。語彙もおなじなら、抑揚もおなじ、語調もおなじです。さらに携帯電話などの新たなコミュニケーション機器ができて、喋れば、あるいは喋るだけで、自分なんかいつでも、どうにも表せるようになった。今はそんなふうに感じられています。

しかしそのように思おうとしながら、本当はそうではないのではないかという不安があります。⑨ というのも、自分を表す言葉に不自由しないと感じているために、こういう言葉が自分に必要なのかということ、だれも考えなくなった。自分がどういう言葉を、どんなふうに使って、どういうことを話しているのかなどと考えるところに、自分を置いて話すことが当然のようになっていたためです。けれども、ふと見まわすと、どこにも自分という存在がなくなっています。

これからは、どんな言葉をどれだけきちんと使っているか、あるいはどれだけきちんと使えないでいるかが、それぞれを違えるとても大事なものになってゆくだろうと思います。全体が自分たちを包んでしまっている。そのことにずっと気づかないでいると、気づいたときには貧しくなっているかもしれません。貧しくなっているかもしれないというのは、言葉を貧しくしかもたない人間になってしまっているかもしれない、ということです。

言葉の貧しい人は貧しい。言葉をゆたかにできる人はゆたかだということを、忘れないようにしたい、そうでないと、わたしたちは自分たちの頭を、自分たちが信じてもない言葉の⑩ がらくたで一杯にしてしまいかねないからです。

（長田弘『読書からはじまる（言葉を結ぶもの）』）

問一

① 言葉を人間の家来と見なせばとあるが、この場合の人間の態度として適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 自分が言葉をゆたかにしていると信じて仲間に教え諭していく。
- ② 自分の言葉のゆたかさを周りの人間にアピールして生きる。
- ③ 自分で言葉をどうゆたかにできるかということを意識して生活する。
- ④ 自分をゆたかに生かすための言葉を自在に操る訓練を積む。

問二

② 美辞麗句の意味として正しいものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 美しい人の言葉は秀逸であるということ。
- ② 言葉巧みに人を喜ばせること。
- ③ 贅沢の極みを尽くしてもてなすこと。
- ④ うわべを巧みに美しく飾った言葉。

問三

X に入れるのに最も適切な言葉を次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 社会
- ② 日常
- ③ 異文化
- ④ 自分

問四

③ ある国を理解するときの外国語に対する考え方の誤解として適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 外国語に精通することが必要である。
- ② 相手の身ぶり、態度を読み取ることが必要である。
- ③ 外国語においては地方の方言を学ぶことが必要である。
- ④ 相手が何を言おうとしているのか感じ取る力が必要である。

問五

④ 感に堪えないの意味として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 我慢ならない
- ② 深く感動する
- ③ 信じられない
- ④ 怒りを覚える

問六

⑤ 母語は才能ではないとはどういうことか、説明したものとして最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 母語はその言葉の中に生まれ、習慣によって使えるようになるものであるということ。
- ② 母語は母親から受け取った言葉の中から使えるようになるということ。
- ③ 母語は勉強して熟達するようになった言葉であるということ。
- ④ 母語は個人のモチベーションによって豊かにできるということ。

問七 ^⑥ つい勘違いしてしまうとあるが勘違いの内容として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 言葉は習慣などではなく勉強の成果として獲得するものである。
- ② 外国語はぺらぺら話せるようになれば意味がない。
- ③ 母語を上手に話すためにはある程度の才能が必要だ。
- ④ その言葉を知らなくとも、おおよその意味は伝わるものだ。

問八 ^⑦ 粗野の対義語として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 巧妙
- ② 荒野
- ③ 慎重
- ④ 優雅

問九 ^⑧ 自分の言葉として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 流行の言葉
- ② 学んだ言葉
- ③ 借用の言葉
- ④ 母国語

問十 ^⑨ 不安を説明したものとして最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 自分が必要とする言葉を自在に操り表現することができていないのではないかと不安。
- ② 自分にふさわしい言葉を選んで使うということができなくなっているのではないかと不安。
- ③ 言葉に不平等はないと信じていたが不平等な側面に気づいていないだけなのではないかと不安。
- ④ 豊かな言葉を持つための勉強が足りていないのではないかと不安。

問十一 ^⑩ 言葉のがらくたで一杯にしてしまいかねないが示す内容として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 自分が信じている言葉だけで生活できる。
- ② 言葉を貧しくしか持たない人間になっている。
- ③ 自分という存在を保つことができなくなる。
- ④ 言葉を何不自由なく使える自分を疑う。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

鳥獣戯画という素敵な絵を社会科の教科書で見たことがあります。先生が黒板に私の名前を書いていました。きしきしと音がして、私の名前は、もう既に、先生のはくぼくに踏みにじられました。指定された上ばきを、まだ用意していなかったもので、私は学校に来るお客さんが覆くスリッパを覆かされています。私は、本当はスリッパの中のばい菌が恐い。そればかりを気にして、下を向いて、足をもぞもぞとさせていると、先生は、幸福な思い^①違いをして、やさしく私の背筋を撫でてくれます。私は不思議な気持の良さが体じゅうを走るのを感じます。鳥肌がふつふつとたつてきて、泣き声をあげなくてはと思い、ようやく前を向きます。教壇の上は、とても見はらしが良い。私は、新しいお友だちの顔をぼんやりと見降します。その時、私は、突然、耳が聞こえなくなります。皆、笑ったり、つつき合ったりしているでしょう。口を誰もが、ぱくぱくと動かして、おなかをすかせた雛鳥のように見えます。

五年三組の新しいお友だちです。本宮杏さんと、みんな仲良くしてあげてください。先生は **A** のことを **B** にお願いします。本当は、先生は **C** に **D** のことをお願いするべきではないのかな。私には、こんなに大勢の人々の中からお友だちを選べるのですから。けれど、皆には、そんな楽しみがないのです。私を受け入れるか拒否するか、その二つの楽しみしかないのです。

もとみやあん、もとみやあん。誰もが、唇を私の名前に形作っています。今にも大合唱が聞こえてきそう。けれど、私は、ぼんやりとそこに立ち尽くしているだけです。私は、この人たちを嫌っていないのだから、皆、私のことも嫌にならないといいなあ、と漠然と考えています。私は、嫌われないことが一番好きです。それが、とても楽しいことだと思うからです。私は、私と同じ年齢の子たちに好かれるのが、とても面倒臭い。でも、嫌われるのはもつと嫌です。学校の生活がうまく運ばなくなりますから。学校での生活は眠る時間より長いのです。私ぐらいの年齢の子にとっては、一番、時間をかけていることが人生です。病気の子はベッドの中がその人の人生なのですよ。が、健康な私は、学校を人生にするしかないのです。

窓際の一番後ろに座ってちようだいね、本宮さん。先生は、ボンと私の背中を叩きます。私は押し出されたシャボン玉のように、教壇を降りなくてはなりません。スリッパが脱げそうです。私は、足の親指を丸めて、それを防ぎながら床に降ります。弾みをつけて、教壇から飛び降りるのです。ばん！^④と床は鳴ります。その途端に、私の耳は、よく聞こえるようになります。

(中略)

「あんた、もう学校、慣れたの？」

姉が私にそう尋ねました。私は頷きました。この数日間、クラスのお友だちが、私を受け入れたことを、感じていたのです。私は自分を主張するでもなく、変にものおじするでもなく、砂場の砂をかきわけるようにして、新しい教室に自分の居場所を作りました。誰も、私の大人びたアクセントを笑うこともなくなり、私の身綺麗な格好に感嘆することもなくなりました。私は、徐々に教室の部品として、上手く動くことが出来るようになり、周囲を軋ませることもありませんでした。そして、その退屈な平和が私の学校に対して望むものでした。

学校の生活は、私を邪魔することがなかった。私は眠っている時のように、心地良く教室の隅に座っていました。私は毎日、とても気が持が良かった。給食の時に薄い牛乳を飲まされる以外に私の嫌いな時間はありませんでした。私を縁側の猫のようにうつらうつらとさせてくれるもの。それらに對して、どうして不平など言えるでしょう。

前の学校よりも遅れている授業。目に映るものだけに反応しているような素直なお友だち。私の午後、窓際の私の机にさすぬるま湯のような暖かい陽ざし。それは夏の野原のそのように私を脅かしたりはしない。物欲しそうな、けれども決して卑しくはない瞳で、私の身につけているものを見詰める女の子たち。明らかにそれと解るようなつたないやり方で、好意を隠しながら私をからかう男子たち。

その愛すべきものたちのひとつに先生の私への接し方があります。先生方は私を好きだった、というよりは私に好かれたがつていました。私を見て、ともすれば頬の緩みがちになる彼らは意識して、少ばかり厳しい態度を他の生徒の前で私に示しましたが、私は気にしませんでした。私は注意を受けると、素直な返事をして下を向きしました。そして、先生にだけ解るように睫毛を少しばかり震わせるのです。私は少しも反省などしていませんでしたが、こうすることによって彼らの良心を刺激してあげたのです。良心の呵責といふのはある意味で心地良いことだと知っていましたから。私は、いつもの自分自身のままでいることを意識していましたが、時折、こんなふうに入の心を楽しませてあげるのです。人を心地良くさせてあげることは自分も心地良くなることだ。私は、その法則を覚え始めたばかりだったので楽しくて練習をくり返していたのです。

さて、私を注意した後で、良心の呵責という甘い汁をちゅつと吸った先生方は、廊下でたったひとり歩いている私にすれ違ったりした時など、思いきり慈愛に満ちた表情を浮かべて見せるのでした。私は暗い気持ちから脱出する時に瞳をよぎるばねの存在を先生に知らせるべく、Eな笑顔を浮かべて見せるのでした。姉にいつもぐうたらと呼ばれている私に、そんなばねなど持てる筈ありませんでしたが、私は、そうすることによって彼らに自己弁護のきっかけを与えてあげるのでした。心の中で、先生というのも素朴なものだ、と感じていました。私の心をそんなふうにしてつかもうとする先生方よりも、耳の裏側に香水を塗って学校に行く私の姉の方が、はるかにプロフ

エッショナルのような気持がしました。彼女は、学校に行く時は、はすっぱな匂いの香水を使っていました。母が菓子作りに使うバニラエッセンスを代わりに使ったりするのです。こういう方が、男を夢中にさせたりするのよ。姉はこう言っていました。が、そう言つて髪をかきあげる時の指の爪が甘つたるい匂いをふりまきながらも、計算ずくのように磨かれているのを、私は見つけて苦笑せずにはいられませんでした。

私は人間には大人と子供という分け方があるのだといつも思います。それは、もちろん実際に年齢をとっているかどうかということとは関係がありません。あの人は子供、あの人は大人。私は自分にとって少し簡単すぎると思われる授業の時は、いつも人々を大人と子供に分けて遊んでいました。

クラスのお友だちには子供が多い。そんなふうにして教室を見まわし、時折、私は大人を見つけて驚くのでした。斜め後ろに座っている男の子もそのひとりでした。

アッコと呼ばれるその子は、本当の名前をあつひこというのだったと思います。私が、先生のお話を聞かずに視線をうろろとさせていると、同じように心ここにあらずの調子のアッコと目が合つてしまいます。彼は、私の視線に決してうろたえずに唇を少しへの字に曲げて、上目遣いで挑戦的な表情を作つて見せるのです。女の子、しかも私のような女の子を、おふざけを含ませることなくまっすぐに見つめることの出来る少年に、私はとても驚きました。

アッコは他の男の子たちのように、余分にはしゃいだりすることをしませんでした。もしも、驚くような事件が教室に起つた場合、その事件と同じ分量だけ驚くのでした。私が新しいリボン^⑩を姉に結んでもらつて登校すると、他の男の子たちはそれを引っぱたりして私をからかうのですが、彼は、小さく微笑んで私のリボンだけを見詰めるのでした。私は彼のやり方が好きになりました。学校という人生をどういうふうに扱つて行くかというやり方、をです。

彼のやり方は、私のそれとよく似ているように見えました。私は彼にそれを知つて欲しかった。私は、授業中に彼と目を合わせた時、もしも、私が姉ぐらいの年齢だったら、多分、しめし合わせて、授業を脱け出して二人でどこかに行くだろうと思ひました。けれど、私は自分たちが、そうしてはいけない年齢であることをよく知っていました。私は、とても、残念がり、その代わりに小さな紙切れにメッセージを書いて、いつもアッコに送りました。それは、とても他愛のないことでした。

たとえば、あの先生のストッキング破れてるよ、とか、わたし、今日、朝ごはんのトーストのみみを残して叱られちゃった、とか、そのようなものでした。私は、何故かアッコに自分たちが共有している人生以外のものを知つて欲しかった。

アッコは、私から来たメモを読むと気づかれないように筆入れの中に隠しました。彼から同じような紙切れが返ってくることはありませんでした。私は、そのことで、益々、気を良くしました。私が大人と認めた男の子が調子にのって、ぼくは朝ごはんに玉子やきを食べた、などと返事を書くようであってはならないのです。私は彼の内に自分に関する知識が詰っていくのを望みましたが、私は、彼が、どんな少年なのかを知りたいとも思いませんでした。ただ、彼が無然とした表情を浮かべるのを見たり、男の子同士でお喋りをしている時に、「おれはね」などという生意気な言葉をはさむのを聞くだけで充分なものでした。私はブラウスについたレースや、嫌だというのにまともや姉に塗られてしまった赤い小指の爪を男の子たちからかわれても平気でした。私は、自分の背中をひとりの大人に守られているように感じていたのです。

私は、そんなふうに気持の良い人生を送っていました。まずまずだわ。私は秋から始まった新しい生活をやっと軌道に乗せたように感じて満足していました。けれど、子供に囲まれた私の居場所は、決してこのまま安定することはないだろうという不安に怯えてもいました。そして、事態は、私の恐れていた通りになっていくのです。

原因は吉沢先生でした。彼が、私を好きなことは知っていました。彼の私を見る目や、私にかける言葉にかぶさる意図的な甘い覆いだけで充分に私は彼の自分への好意に気付くことが出来ました。私が、もつと積極的に、それに気付いているような振りをすればよかったのかもしれませんが。彼は私を好いていることを他のお友だちの前で、あからさまに表現し過ぎました。そして、それは私のもつとも恐れていることだったのです。

私は彼が授業の最中に私を誉め過ぎるのを聞いて冷汗を流していました。何故、アッコのように振る舞うことが出来ないのでしょうか。何故、自分の好意を私だけにではなく、他の人々にも認識させたいのでしょうか。私の水のような人生が徐々に壊されていくのを感じます。最初に立ち上がったのは、学級委員をしている恵美子という女の子でした。その前に、もう既に、女子の間では、陰惨な空気が充分に流れて出口を見つけているような感じでした。私は、そのことに気付き始めると、体育の時間が苦痛になりました。けれど、見学することは、益々、吉沢先生の気を引くことだと解りきっていたので、私は隅の方で目立たないように準備運動をしたりしていたのです。

ところが吉沢先生は、そんな私の心配をよそに、私の所にやって来て、分別のない態度に出るのです。それも、少しも嫌らしさのない、あの仕様のない「快活」という様式で、私に好意を示すのです。

快活な若い先生を子供たちが嫌える筈がありません。私は吉沢先生をずるいと思いました。女子のいき所のない嫌悪は、私に向けられるしかないではありませんか。他人の迷惑を考えない人の良さには、対処の仕様がありませんか。

「いい気になっちゃってさ」

例によって、男子が私の髪を引っぱっている最中に、恵美子はそう言いました。男の子は、はっとしたように私の髪を離しました。彼女のその言葉は、この教室で私に向けられた最初の反逆の言葉だったのです。

この瞬間、私の髪のリボンや赤いスカートや真っ白なソックスなどは、人々の憧れの対象ではなくなりました。その内に、自分の薄茶の長い髪や、濃い睫毛や、細い首なども、彼らの嫌悪の原因になることは目に見えている、と私は直感しました。そして、それが進んで、私の吐き出す言葉やそれをくるんでいる空気もそうになっていくだろうとも予想出来ました。困った事態になりつつある。私はひそかに震えました。

恵美子が、とりわけ吉沢先生を好きなことを私は、最初から見抜いていました。彼女は、先生を怒らせない程度に口ごたえをして、彼の気を引き、彼の目が自分の方に向けられてから初めて好意をあらわにする、という態度をとっていました。私は、それを見ていてなかなか、上手いやり方をする、と感心していました。けれど、それでは彼のような男の気を引くことは出来ません。

恵美子は、自分を主張することがとても上手な子でした。私とは正反対の姿勢をいつも崩しませんでした。おまけに、とても成績がいい。いつも、クラスのお友だちの気持を引きつけて離さない子でした。私に、最初に親切にしてくれたのも彼女です。転校生に親切にするという誰も逆うこと¹³の出来ない美德を恥しげもなくやってのけるような子でした。私は彼女を決して好きにはなりませんでしたが、感謝していたのは事実です。こういう子がひとりいると、私のような子は生き易くなりますもの。

けれど、反面、野暮な彼女を馬鹿にしていたふしもあります。先生の質問に、腕をまっすぐに伸ばして、しかもその腕を耳にぴたりとくっつけて手を上げて見せる彼女。私は何故あんなことをためらいもせず、やってのけられるのかと、あきれていました。

(山田詠美『風葬の教室』)

問一 ① 幸福な思い違いの説明として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① スリッパの中のばい菌が気になって恐怖を感じていると思っていること。
- ② 私の名前が踏みにじられたと怒っていると思っていること。
- ③ 私が転校したばかりで緊張していると思っていること。
- ④ 私が不思議な気持ちよさから泣きそうになっていると思っていること。

問二 A 〽 D に入る語として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。(同じ番号を何度使っても良い。)

- ① 私
- ② 皆
- ③ 姉
- ④ お友だち

問三 ② ③ ④ ポン シャボン玉のように ④ ぱんの表現技法として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。(番号は一度ずつしか使えない。)

- ① 擬人法
- ② 擬音語
- ③ 擬態語
- ④ 倒置法
- ⑤ 直喩
- ⑥ 暗喩

問四 ⑤ 教室の部品としてが表している私の状況として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 私が教室内で平和を維持する役割を担っているという状況。
- ② 私が教室の中で重要な立ち位置を獲得した状況。
- ③ 私が教室にいる皆から興味を持たれなくなり、無視されている状況。
- ④ 私が教室の中で目立つことなく溶け込んでいる状況。

問五 ⑥ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹾 㹿 㺀 㺁 㺂 㺃 㺄 㺅 㺆 㺇 㺈 㺉 㺊 㺋 㺌 㺍 㺎 㺏 㺐 㺑 㺒 㺓 㺔 㺕 㺖 㺗 㺘 㺙 㺚 㺛 㺜 㺝 㺞 㺟 㺠 㺡 㺢 㺣 㺤 㺥 㺦 㺧 㺨 㺩 㺪 㺫 㺬 㺭 㺮 㺯 㺰 㺱 㺲 㺳 㺴 㺵 㺶 㺷 㺸 㺹 㺺 㺻 㺼 㺽 㺾 㺿 㻀 㻁 㻂 㻃 㻄 㻅 㻆 㻇 㻈 㻉 㻊 㻋 㻌 㻍 㻎 㻏 㻐 㻑 㻒 㻓 㻔 㻕 㻖 㻗 㻘 㻙 㻚 㻛 㻜 㻝 㻞 㻟 㻠 㻡 㻢 㻣 㻤 㻥 㻦 㻧 㻨 㻩 㻪 㻫 㻬 㻭 㻮 㻯 㻰 㻱 㻲 㻳 㻴 㻵 㻶 㻷 㻸 㻹 㻺 㻻 㻼 㻽 㻾 㻿 㼀 㼁 㼂 㼃 㼄 㼅 㼆 㼇 㼈 㼉 㼊 㼋 㼌 㼍 㼎 㼏 㼐 㼑 㼒 㼓 㼔 㼕 㼖 㼗 㼘 㼙 㼚 㼛 㼜 㼝 㼞 㼟 㼠 㼡 㼢 㼣 㼤 㼥 㼦 㼧 㼨 㼩 㼪 㼫 㼬 㼭 㼮 㼯 㼰 㼱 㼲 㼳 㼴 㼵

問六 良心の呵責^⑦ 苦笑^⑧ 美德の意味として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

良心の呵責^⑦

- ① 自分の正しさを信じていること。
- ② 悪いことをしたと罪悪感を感じ苦しむこと。
- ③ 反省しているふりをする事。
- ④ 人の心を楽しませる努力をすること。

苦笑^⑧

- ① 自分には理解できない相手を馬鹿にするように笑うこと。
- ② 笑うつもりはなかったが、耐えられずについつい笑ってしまうこと。
- ③ 周囲に気づかれないようにこつそり笑うこと。
- ④ 状況の滑稽さに戸惑いの気持ちを持ちながら、しかたなく笑うこと。

美德^⑬

- ① わざとらしい行い
- ② 強制的な行い
- ③ すばらしい行い
- ④ 照れくさい行い

問七 E に当てはまる語として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 意味深長
- ② 天真爛漫
- ③ 傍若無人
- ④ 山紫水明

問八 女の子、しかも私のような女の子という表現から分かる私の気持ちとして最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 自分に自信があるが周囲に受け入れられるか心配している。
- ② 転校してきたばかりなので、周囲に遠慮している。
- ③ 自分以外のすべての人を見下し、攻撃している。
- ④ 自分のことを人とは違う特別な存在だとうぬぼれている。

問九 その事件と同じ分量だけ驚くの意味として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 大げさに反応しない
- ② 私の様子を注視する
- ③ わざと興味のないふりをする
- ④ 挑戦的な表情を作ってみせる

問十^⑪ ひとりの大人とは誰のことか、最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 姉 ② 両親 ③ アッコ ④ 吉沢先生

問十一^⑫ それに気付いているような振りをすればよかったのかも
しれませんが考えた理由として最も適切なものを次より選
び、番号をマークしなさい。

- ① 今まで以上に注目を浴びて、気持ちのよい人生を送ること
ができるから。
② より先生との関係が良好になり、いじめから守ってもら
えると考えたから。
③ 先生が私への好意をわかりやすく表現することをやめ、
周囲の反感を買うこともなくなるから。
④ 体育の授業を見学することで先生の気を引いていること
がばれずにすむから。

問十二^⑭ 何故あんなことをためらいもせず、やっつけられるの
かとに表れている感情として最も適切なものを次より選び、
番号をマークしなさい。

- ① 羨望 ② 感嘆 ③ 失望 ④ 侮蔑

四 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

さて少将は、御葬送の暁に、^①比叡の山の横川にただ一人登り、^②慈覚大師の、横川の北なる谷に大きな杉の木のうちほにましまして、如法經書きたまふ所にまうでて、法師になりぬ。その時に少将独りことにいはく、

たらちねはかれとえしもむばたまのわが黒髪をなですやありけむ

となむ言ひ X。その後、慈覚大師の御弟子となりて、法を受け習ひて、それより今少し深く入りて、ねむごろに仏の道を行うほどに、聞けば、今の天皇の、位につかせたまひて、[※]諒闇など果て、^④世の人皆衣の色変はりぬらむと推し量りて、^B物あはれに覚えければ、入道独りことに、

皆人は花の衣になりぬらむ苔のたもとはかはきだにせず

となむ言ひ X。かくのごとくして行ひけるほどに、年月を経にけり。

〔『今昔物語集』〕

※ましまして……いらつしゃって

※諒闇……天皇の喪に服する期間

問一 ^Aねむごろに、^B物あはれに覚えければの現代語訳として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

^Aねむごろに

- ① 落ち着いて
- ② まどろみながら
- ③ 怠けた態度で
- ④ 熱心に

^B物あはれに覚えければ

- ① うれしくて感動したので
- ② しみじみと思われたので
- ③ 悲しい記憶がよみがえったので
- ④ 不憫に感じられたので

問二 ^①暁とはどの時間帯を指す語か、最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 夜明け前
- ② 昼間
- ③ 夕方
- ④ 夜更け

問三 ^②慈覚大師のの訳し方として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 慈覚大師が
- ② 慈覚大師で
- ③ 慈覚大師の
- ④ 慈覚大師と

問四 ^③むばたまのという枕詞が導き出す語として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① たらちね
- ② わが
- ③ 黒
- ④ あり

問五 Xに入れるのに最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① けら
- ② けり
- ③ ける
- ④ けれ

問六 ^④世の人皆衣の色変はりぬらむとあるが内容として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 人々の衣服がどんどん色褪せていくにちがいない。
- ② 人々の衣服は通常のもに変わっているのだろう。
- ③ 人々の衣服の色は昔とは異なるものとなった。
- ④ 人々の衣服も世代によって変化しているはずである。

問七 ^⑤花の衣／苔のたもとはそれぞれ何を表しているか、最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 常識的な服／非常識な服
- ② 薄手の服／厚手の服
- ③ 流行りの服／流行遅れの服
- ④ 色鮮やかな服／質素な服